

お茶高へようこそ 歓迎光臨茶大高中 日中交流事業

去る七月二日木曜日、今年度我が校が参加する日中高校生交流の一環として、中国北京市の女子高校生二五人がお茶高を訪れた。一〇月に中国を訪問する予定のお茶高生はそれぞれペアを組み、案内役をつとめた。彼女たちはお茶高生と一緒に授業や部活動に参加し、七時限目のHRには微音室で二年生との交流会が行われた。

この日中高校生交流事業は、イオングループが利益の一割を充てて主催する社会貢献活動、イオン1%CLUBの「国際的文化交流・人材育成」の一環だ。今年が四年目の開催で、去年までは筑波大附属高校と東京学芸大附属高校の生徒合わせて四〇人程度の活動だったが、今年の日中交流正常化



四〇周年を記念し、規模を二〇〇人に拡大して行われる。そこで都立西高校と本校にも声がかかったというわけだ。

七月に来日した中国の高校生は学校訪問のほか、ペアの家にホームステイしたり駐日中国大使館でのパーティに参加したりした。この一〇月にはお茶高生が中国に行き、同様の体験をする。この事業はただの文化交流ではなく、「小大使」という扱いなので、互いに首相官邸や大使館、外交部(中国の外務省にあたる)など政治の中枢を訪問しあう。

ところが、この日中関係諸島領有問題をめぐり日中関係が冷え込んでいることで、訪中を心配する声があがっている。実は一昨年も日本の高校生が中国に行く時期に尖閣諸島問題が盛り上がり、安

全性が懸念された。そのときは北京市当局がパトカーで先導するなどの対策を講じ、何事もなかった先方は「今回も責任を持って安全の確保に努めるので心配ない」と説明している。

さて、今年度は国交正常化四〇周年であるという理由で本校もこの事業に参加できたが、来年度以降はどうかだろうか? 石井朋子副校長によると、イオンの担当者は「来年もお茶高に声をかけたい」と話しているようだ。また「まだ着想の段階だが、二泊三日の合宿で日中の高校生がディスカッションをする」というような企画も出ているらしい。石井先生に、訪中するお茶高生一五人へのコメントをお願いした。「社会科学の先生方から下さった事前授業など、中国に関するさまざまな知識を身につけたうえで、でも先入観を持たずに生の中国を見て感じてきてくださいな。」

学校訪問の日 一日の流れ

まず、七月二日木曜日の朝、日中交流事業に参加するお茶高生一五人(一、二、三年生)が首相官邸近くで中国の高校生と合流した。首相官邸では、首相代理の藤村修官房長官他が歓迎の挨拶、そして中国からいくつかの記念品が披露され、贈呈された。

その後四時限目(バス)に、バスがお茶高に到着。中国人の一人は二年梅組と一緒に家庭科の調理実習(鱈の鍋照り焼き)を体験した。午後はそれぞれのペアとともに各クラスに分かれ、授業に参加。物産展のコーナーでは、お茶高生に混じって席に着き、ペアになったお茶高生が英語で授業内容を説

明する場面が見られた。

七時限目のHRでは大講堂で二年生が交流会を行った。執行部部長の白石千織さんが英語で挨拶を述べた。出し物には中国の高校生は校歌を歌い、お茶高は合唱部が中国語の歌を贈った。記念品の交換では、浜谷校長に贈り物を手渡す際、あまりにシャッターチャンスを得た中国の生徒のリーダーへ向けて笑いが起こり、講堂は和やかな雰囲気。

その後通訳を介して質疑応答。中国側から文化祭についての質問が出て、「しばらく互いの学校行事談。あちらの学校ではどの自慢大会のような行事があり、やはり生徒が主となって行事を進めるらしい。お茶高生からは、「中国の高校生は恋愛禁止というの本当か」という質問が出た。答は確かにあまり大げらには認められないようだった。そのとき答えてくれた女子高生が、「じゃあ日本ではどうなの?」と冗談めかして聞き返してきた。不思議だったのは、それは中国語だにも聞かず、通訳が日本語に訳す前にお茶高生から笑いが起こったことだ。記者も彼女の言ったことを自然と察してしまった。自分もびっくりした。恋バナに国境は関係ないようだ。放課後は茶道部、華道部、筆曲部で体験。部員や講師の先生方が教え、畳に正座してお茶やお菓子を嗜んだり、筆で「さくら」を演奏したりした。

ホームステイと自由行動

その週の土曜日の二四日朝、学校に集合。ペアごとに分かれ、自由行動。その日はそれぞれの家でホームステイが行われた。土日の活動について、二年梅組の児玉友佳里さんと太田原奈都乃さんに教えて頂いた。

「どこに行きましたか?」

児玉 二箇の繁田さんのペアと原宿に行きました。でも私のパートナーは洋服には興味があつたみたいで、お店にはあまり入りませんでした。でも、薬局でクリームとか目薬とか、あとお茶高ちゃんにお土産と言って、腰痛の湿布を買っていました。

太田原 私は母と三人で築地に行きました。パートナーの子が食べたかったものを、試食したり買ったりしながら散策して、それから渋谷のファッションビルに行って、その後いったん家に帰ってから図書館に行きました。その子はすごく勉強家で、本を見ながら「これどういう意味?」と聞いてくるので、頑張って英語や漢字を使って説明しました。彼女は日本の小説が大好きで、私より詳しくかったですね。本屋さんで本とマンガを買っていました。

論説 オスプレイ問題について考える

今、一〇月に沖縄に配備予定の新型輸送機MV22オスプレイが、大きな波紋を呼んでいる。オスプレイとは、二つの回転翼を上に向けてヘリコプターのように、水平方向に向けることができる飛行機のことだ。従来の中型輸送ヘリコプターと比べて速度は二倍、輸送可能な重量は三倍とされる。また垂直に離着陸できるため、滑走路の無い場所にもより早く大量の人員が投入できる利点がある。

問題視されているのはその安全性だ。プロペラと一体のエンジン部分の向きを「ヘリコプターモード」と「飛行機モード」とで切り替える。その転換の際に事故が起こりやすいとされる。開発段階だった九〇年代に墜落事故が相次ぎ、今年に入ってからも四月にモロッコで、六月に米フロ

リダ州で同様の墜落事故が起きており、その安全性には日本国内で大きな懸念が寄せられている。米側は、安全性の論議は基本的にもう終わったとの立場で、事故を「人為的ミス」だとする。しかし、その一方でオスプレイを操縦する優秀な隊員でもミスをする、それが墜落など大事故に発展すること自体が問題だ。日本政府は独自の分析評価に基づき安全確認を行い、飛行の高度制限などの措置を取ることに「安全宣言」を出し、あくまで一〇日本格運用を貫く構えだ。

当然配備先の沖縄は反発。オスプレイに反対する県民大会に向けた募金活動、署名活動などの動きを見せている。配備予定の普天間飛行場の周りは市街地であり、万が一同じように墜落事故が起きた場合大惨事は免れないだろう。そもそも何故日本政府はオスプレイの運用にこだわるのか。米国の強気の要求に逆らえない、昨今よく言われる「弱腰外交」の様子はやはり自立したオスプレイには東アジア全体への抑止力となる役割が期待される、と政府は考えているようだ。

長引くオスプレイ問題は、単に配備しないの問題ではない。思えば米国の関係が悪化し、日米同盟関係の根本を揺るがしかねない。だからと言って沖縄の安全を確保しないまま強硬に配備を進める訳にもいかない。とは言え、配備中止というも難しい立場だ。だが「安全」は宣言できても、それが即座に「安心」に結び付く訳ではない。「国民」を守るための、より具体的な措置の提案が求められている。

(日比野友香)

へくれましたよ。

児玉 私は数学の教科書を見せたら、中国のより簡単なそうです。夜は彼女が日記を書いてくれるので、次の日の会話に備えて単語を調べました。私がお風呂からあがって部屋に行くとき、もうぐっすり寝ていました。

太田原 私のパートナーもすぐく疲れていました。

次の日は?

太田原 行きたいと言ったので、東京タワーとスカイツリーに連れて行きました。感想は「ビューティフル」だそうです。

児玉 池袋で買い物です。彼女は腕時計を買っていました。二人によると、土曜日の午後には学校の校庭にヤマボウシの記念植樹をしたそうだ。そして東京ディズニーランドで遊んだ。二日空いて最後の一日木曜日に、中国の二行が泊まったホテルで女子のパーティをしたという。

二年蘭組の繁田あかりさんにもお話を伺った。

「嬉しかったのは、ホームステイのとき生野菜や肉類など全部平らげられたことです。他のお家では、お寿司を食べても食べきれなかったり、味噌汁を出して『これは味噌のスープだよ』と言ったら、口をつけなかったりしたそうなんです。外出先でファミレスに入った時に私が頼んだのと同じものを注文するから、何となく合わせてくれるような気がしました。電車で私が『寝る』と言ったら、『寄りかかっていいよ』と言って頭を引き寄せたのが面白かったです。

きっかけとしては、私が英語で伝えようとした努力でも通じなくて、『OK、OK』と言われ、相手も途中で伝えるのを諦めてしまっていました。お互いに日本語と中国語で発音が似ているし、単語力も足りなかったんです。会話はすごく大変でした。でも努力は大変だと思いません。

事前に、『困ったときは漢字で通じるよ』という人々に言われましたが、私の実感では頼りにできません。同じ形でも読み方が違ったりする。

昨年は、学芸大附属高校と筑波大附属高校は中国のごみ処理場などを見学したそうですが、今年は何をするのかまだ細かく知りません。でも万里の長城には行きませんが、近頃の尖閣問題で、行くのをお母さんに引き止められている子もいますが、私は行く気満々です。

この日中交流事業に参加したかったのは、公式的には『海外の高校生がどんなことを考えているのか実際に会って知りたいから』と発表していますが、本当は一番の理由は、中国に行ってみたくらいです。中国に行ったら、おいしくごはんをいっぱい食べたいです。」

お茶高生の訪中は一〇月の七日から三日に予定されている。眼にもお茶高生にも豊富な実体験を積んでほしいものだ。